



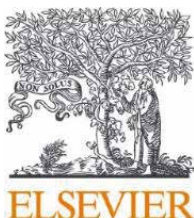
RA協議会
The Research Manager and Administrator Network Japan

RA協議会 第8回年次大会

リサーチ・アドミニストレーション機能の拡充による
研究力強化への取り組み

2022
8/30^火 ▶ 31^水
受付開始 9:00 終了時刻 16:00

- 開催場所：[年次大会] 仙台国際センター 展示棟(対面発表とzoomによる同時配信)
[情報交換会] TKPガーデンシティ仙台(AER)
- 対象：URA等大学および研究機関の教職員、省庁関係者、助成機関関係者、
その他URA業務に関心のある方等
- 参加費：会員 5,000円、非会員 20,000円
※情報交換会は別途 当日 7,000円
- 主催：一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会



RA協議会総会

2022年8月30日 17:30~18:00 / B会場 展示室3-B

情報交換会のご案内

2022年8月30日 18:30~
TKPガーデンシティ仙台(AER)21階ホール21

年次大会ホームページ

<https://confit.atlas.jp/guide/event/rman8th2022/top>

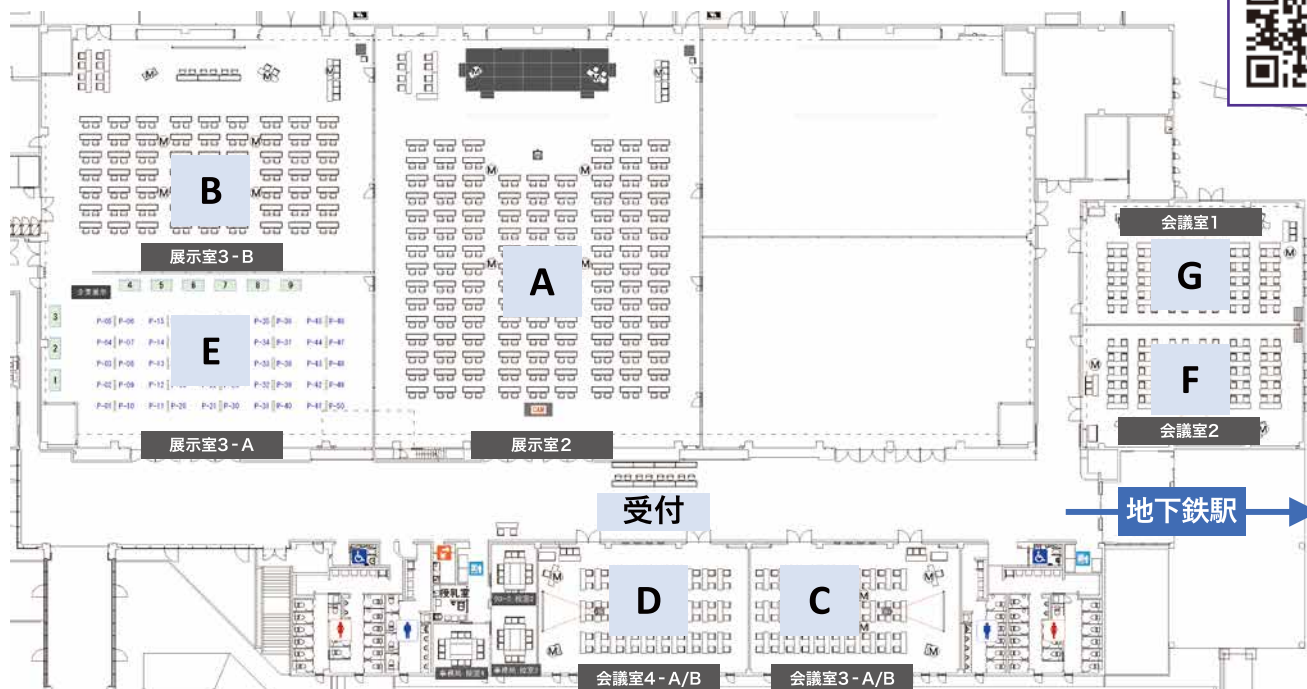


会場案内

[年次大会] 仙台国際センター 展示棟

〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地

展示棟へのアクセス



お問い合わせ

RA協議会 第8回年次大会 実行委員会事務局
国立大学法人 東北大学 研究推進・支援機構URAセンター
E-mail : 8th_rman_j@grp.tohoku.ac.jp
RA協議会HP : <https://www.rman.jp/>
東北大学URAセンター : <https://ura.tohoku.ac.jp/>



大会テーマ

リサーチ・アドミニストレーション機能の 拡充による研究力強化への取り組み

A 研究機関とURA	G 知的財産	S 特別セッション
B 研究コンプライアンス とリスク管理	H セクター間連携	R 国際専門委員会
D 外部資金の獲得	J 賛助会員セッション	Z ランチョンセミナー
E 研究力分析とその活用	K スキルプログラム専門委員会	
F 研究プロジェクトの マネジメント	N 参加者ネットワーキング	

1日目 8月30日(火)							
会場名	A	B	E	C	D	F	G
	展示室2	展示室3-B	展示室3-A	会議室3-A/B	会議室4-A/B	会議室2	会議室1
9:00-10:00	受付						
10:00-10:20	オープニング						
10:20-10:30	休憩						
10:30-12:00	S 特別セッション		ポスター 企業ブース			E-1 評価を評価する・研究力の 分析・評価の実際	
12:00-12:10	休憩			休憩			
12:10-13:10				Z-2 ランチョンセミナー (ターンイットインジャパン 合同会社)	Z-1 ランチョンセミナー (早稲田大学アカデミック ソリューション)		
13:10-13:20	休憩			休憩			
13:20-14:50	専門委員会活動報告	J-2 賛助会員 (VALUENEX)		H-1 研究力強化に向けて異なる セクター間連携から共創につ なげるURA機能とスキルとは	G-1 医療系プロジェクトにおける 出口戦略に基づいた伴走支 援 -研究・知財・薬事法制と の関係を題材にして-	D-1 医薬品開発のためのレギュ ラトリーサイエンス入門	
14:50-15:50	休憩		ポスター発表 コアタイム	休憩			
15:50-17:20	J-1 賛助会員(クラリベイト)	R-2 国際専門委員会・新たな価値 創造の源泉となる国際 URAの活動と展望	ポスター 企業ブース	F-1 ELSI(倫理的・法的・社会的 課題)への取組でURAに 期待される役割	N-1 みんなで解決!異分野融合 のための対話促進の壁	D-2 選ばれる大学の博士環境 を考える	F-2 大学の健康長寿に関わる 社会貢献の例と提案
17:20-17:30	休憩			休憩			
17:30-18:30		定時社員総会					

2日目 8月31日(水)								
会場名	A	B	E	C	D	F	G	
	展示室2	展示室3-B	展示室3-A	会議室3-A/B	会議室4-A/B	会議室2	会議室1	
9:00-10:30		J-3 賛助会員(エルゼビア)	ポスター 企業ブース	A-1 政府若手職員と若手URA 等の実務者とのワークショップ ～地域中核・特色ある研究 大学の強み・特色を伸ばす ために 取り組めること～	N-2 プログラミングによるデータ 分析の生産性向上 ー Code for Research Administration	E-2 研究設備・機器の共用推進 に向けたガイドラインを活用 した研究力強化	F-3 最近よく聞く「総合知」って 何?ー人文・社会科学の 視点からー	
10:30-10:40	休憩			休憩				
10:40-12:10		K-1 テーマ別勉強会2021(試行) 成果報告と今後の展望		A-2 「総合知」を使いこなすには URAにできること、 やるべきこと	N-3 URAコミュニティサロン ～繋がる会	B-1 URA流モヤモヤさばき術 リスク管理・コンプライアンス編 一産学連携から研究インテ グリティまでー	F-4 URAに必須のプロジェクト マネジメントスキルを誰もか OJTで学べる仕組みとは	
12:10-12:20	休憩			休憩				
12:20-13:20				Z-3 ランチョンセミナー (カクダス・ コミュニケーションズ)	N-4 ランチミーティング			
13:20-13:50	休憩			休憩				
13:50-15:20		K-2 中堅URAのキャリアアップに 必要なスキルについて考える		A-3 一見多様なリサーチ・アドミ ニストレーションに共通する 〇〇とは	N-4 THE ネットワーキング	B-2 大学の安全保障輸出管理・ 機微技術漏洩防止の キーパーソンは誰!?	A-4 大学全体の研究環境改善 とURAの役割	
15:20-15:30	休憩							
15:30-16:00		クロージング						

8th RMAN-J Annual Conference 2022

特別セッション	月日	時間		
	8/30	10:30-12:00	S	特別セッション 組織間連携や分野融合による大学等の研究力強化の方向性
		15:50-17:20	R-2	三宅 雅人(奈良先端科学技術大学院大学) 新たな価値創造の源泉となる国際URAの活動と展望
	8/31	10:40-12:10	K-1	矢吹 命大(横浜国立大学) テーマ別勉強会2021(試行)成果報告と今後の展望
		13:50-15:20	K-2	三和 正人(九州大学) 中堅URAのキャリアアップに必要なスキルについて考える

企業セッション	月日	時間		
	8/30	12:10-13:10	Z-1	株式会社早稲田大学アカデミックソリューション(ランチョン)
		12:10-13:10	Z-2	ターンイットインジャパン合同会社(ランチョン)
		13:20-14:50	J-2	VALUENEX株式会社(賛助会員セッション)
		15:50-17:20	J-1	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社(賛助会員セッション)
	8/31	9:00-10:30	J-3	エルゼビア・ジャパン株式会社(賛助会員セッション)
		12:20-13:20	Z-3	カクタス・コミュニケーションズ株式会社(ランチョン)

会員セッション	月日	時間		オーガナイザー	タイトル
	8/30	10:30-12:00	E-1	荻 多加之(福島大学)	評価を評価する:研究力の分析・評価の実際
		13:20-14:50	H-1	根本 靖久(東北大学)	研究力強化に向けて異なるセクター間連携から共創につなげる URA機能とスキルとは
			G-1	原田 隆(東京工業大学)	医療系プロジェクトにおける出口戦略に基づいた伴走支援 -研究・知財・薬事法制との関係を題材にして-
			D-1	樋口 明弘(金沢大学)	医薬品開発のためのレギュラトリーサイエンス入門
		15:50-17:20	F-1	白井 哲哉(京都大学)	ELSI(倫理的・法的・社会的課題)への取組でURAに期待される役割
			N-1	津村 明子(横浜国立大学)	みんなで解決! 異分野融合のための対話促進の壁
			D-2	田中 有理(東京都立大学)	選ばれる大学の博士環境を考える
			F-2	房木 ノエミ(東北大学)	大学の健康長寿に関わる社会貢献の例と提案
	8/31	9:00-10:30	A-1	齊藤 大地(文部科学省) 大林 徹也(文部科学省) 馬場 大輔(経済産業省) 坂本 卓司(内閣府)	政府若手職員と若手URA等の実務者とのワークショップ ～地域中核・特色ある研究大学の強み・特色を伸ばすために 取り組めること～
			N-2	平井 克之(新潟医療福祉大学)	プログラミングによるデータ分析の生産性向上 — Code for Research Administration
			E-2	荒砂 茜(東海大学)	研究設備・機器の共用推進に向けたガイドラインを活用した研究力強化
			F-3	新澤 裕子(東京大学)	最近よく聞く「総合知」って何?—人文・社会科学の視点から—
		10:40-12:10	A-2	白澤 基紀(東北大学)	「総合知」を使いこなすには URAにできること、やるべきこと
			N-3	平田 徳宏(信州大学)	URAコミュニティサロン～繋がる会
			B-1	明谷 早映子(東京大学大学院医学系研究科)	URA流モヤモヤさばき術 リスク管理・コンプライアンス編 —産学連携から研究インテグリティまで—
			F-4	三宅 誠司(信州大学)	URAに必須のプロジェクトマネジメントスキルを誰もがOJTで学べる仕組みとは
		13:50-15:20	A-3	馬場 良子(東京大学)	一見多様なリサーチ・アドミニストレーションに共通する〇〇とは
			N-4	松山 紀里子(信州大学)	THE ネットワーキング
			B-2	小野 薫(電気通信大学)	大学の安全保障輸出管理・機微技術漏洩防止のキーパーソンは誰!?
			A-4	大西 将徳(京都大学)	大学全体の研究環境改善とURAの役割

ポスター 一覧①

A研究機関とURA

C研究力の強化と評価

D外部資金の獲得

E研究力分析とその活用

F研究プロジェクトのマネジメント

Hセクター間連携

I研究広報

J国際化推進

No	テーマ 区分	氏名	所属機関	タイトル
P1	A	藤田 弥世	京都大学	学際研究の芽吹きを支える効果的な支援のあり方とは？
P2	A	小田 慶喜	東海大学	研究基盤を支える研究支援者間の連携の必要性～技術職員からの提案～
P3	A	佐野 恵利子	中央大学	URAの業務拡大と求められる専門性の変化 (II)
P4	A	平田 徳宏	信州大学	URAコミュニティサロン～繋がる会～活動報告①
P5	A	平田 充宏	神戸大学	人社系URA主導の“総合知”への取り組み –神戸大学の研究支援体制の“総合知”も活用した事例–
P6	A	新澤 裕子	東京大学	東京大学認定URAとは？—多彩なURA人材のネットワーク化と協働—
P7	A	栗原 翔吾	筑波大学	URA在職10年目-これまでの心理的葛藤とジレンマ-価値観の再認識-
P8	C	壁谷 如洋	自然科学研究機構	電子申請システムへの共同利用・共同研究の成果論文の自動収集機能の実装と分析
P9	C	大西 将徳	京都大学	大学キャンパスを実証フィールドとした研究推進の課題と展望
P10	C	市野 貴之	東京都立大学	研究カルテを活用した研究支援の取り組み～研究者毎に最適な研究支援の提供に向けて～
P11	C	澤田 真理子	北海道大学	博士人材支援におけるURAの役割と可能性-フェローシップ申請の例から-
P12	D	伊藤 貴志子	筑波大学	科研費申請資料改善支援における外部支援の活用
P13	D	浦田 穰司	同志社大学	科研費申請における研究費計画策定支援ツールの提供
P14	D	丸山 浩平	早稲田大学	選ばれる大学の博士環境を考える
P15	D	久保 琢也	横浜国立研究推進機構	Microsoft Office 365を活用した科研費採択調書のオンライン閲覧制度
P16	D	渡沼 玲史	学習院大学	科研費調書作成支援コメントと審査結果の質的データ分析手法の確立
P17	D	小野 照子	東京都立大学	科研費の研究計画調書におけるパラグラフ構成モデル
P18	D	渡邊 幸佑	東京都立大学	科研費の研究計画調書におけるパラグラフの出現傾向
P19	E	池谷 瑠絵	国立情報学研究所, 筑波大学	海外主要4学術情報基盤のダッシュボード比較分析—オープンサイエンス指標に注目して—
P20	E	荻 多加之	福島大学	機械学習を用いた学術分野の自動分類とWEBアプリによる実装
P21	E	村田 卓也	京都大学	部局の研究力強化に資するURAの役割
P22	E	吉井 隆明	科学技術・学術政策研究所	NISTEP大学・公的機関名辞書の利用に資する拡充に向けてRAの方々へ
P23	E	安部 恵祐	大分大学	多部門への支援(産学官金等共創教育・研究・キャリア・コロナ対応等)における コーディング分析事例と成果創出等について
P24	E	五十嵐 美穂	一般財団法人 総合科学研究機構	J-PARC MLFにおける効率的な成果収集のための取り組み –Crossref Funder Registryの活用—
P25	E	牧野 茂	静岡大学	中期計画における評価指標の進捗管理:データベースを活用した重点研究分野の定義とモニタリング
P26	E	高橋 さやか	東北大学	プレスリリースと主要文献の被引用数の関係性の分析方法の検討 ～被引用数の経時的モニタリング～
P27	E	開本 亮	知財戦略デザイナー	3次元AIクロスマップによる戦略的産学連携の試み
P28	E	金沢 輝一	国立情報学研究所	異分野融合研究を支援する研究マッチングシステムithinc about the Crossroad
P29	E	間宮 るい	茨城大学	「異分野連携での取り組み」を促進する要因を探る ～100人論文の手法を用いた事例報告～
P30	E	長井 圭治	金沢大学	共同利用設備の分野間利用に関する定量的な分析例
P31	E	萩原 友希江	筑波大学	可視化が研究の価値を高め、世界の研究者をつなぐ
P32	E	中渡瀬 秀一	国立情報学研究所	研究分野内での競争における優位性の分析
P33	F	大菊 鋼	京都大学	AMED『橋渡し研究プログラム 異分野融合型研究開発推進支援事業』のご紹介
P34	F	中平 博之	京都大学	京都大学におけるAMED『橋渡し研究プログラム (異分野融合型研究シーズ)』発掘・育成支援の取り組み
P35	F	徳江 彩子	東北大学	医療応用を目指した異分野融合型研究開発に必要な支援
P36	F	井上 隆弘	大阪大学	異分野融合型研究開発の推進による未来医療創出
P37	F	佐藤 真	学習院大学	教職共創×文理融合×産官学連携プロジェクトのマネジメントにおける「URAスキル標準」について
P38	F	有馬 充	九州大学	「総合知」を結集したトランスディシプリナリー型異分野融合研究基盤の創出
P39	F	松本 依子	慶應義塾大学	URAの連携推進による異分野融合型医療シーズの発掘と育成 —慶應義塾大学病院臨床研究推進センターの取組み—

ポスター 一覧②

A 研究機関とURA

C 研究力の強化と評価

D 外部資金の獲得

E 研究力分析とその活用

F 研究プロジェクトのマネジメント

H セクター間連携

I 研究広報

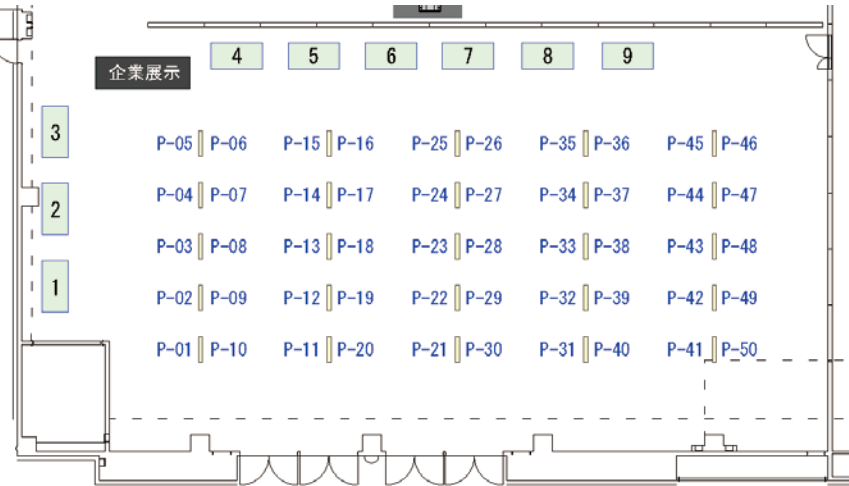
J 国際化推進

No	テーマ区分	氏名	所属機関	タイトル
P40	H	藤重 雅嗣	信州大学	信州大学の交流基盤「アクア・ネクサスカーボンプラットフォーム(AxC-PF)」の構築
P41	H	田上 款	京都大学	研究者と民間助成のマッチングを促進する民間助成DBの開発
P42	H	下郡 三紀	京都大学	産学連携イベントを活用した女性研究者の活躍例紹介とネットワーク構築の試み
P43	I	坂井 華海	熊本大学	研究者と協働で分野横断交流の場拡大を目指す取り組み〜Kumadai-Hubにおける巡回ポスター展企画〜
P44	I	森岡 和子	北海道大学	学術交流と知の発信の場の創出「書香の森」のご紹介
P45	I	近藤 ゆりこ	東京都立大学	研究に強い関心を持たない層への効果的な研究広報とは〜キャラクター活用事例の紹介〜
P46	J	姚 馨	沖縄科学技術大学院大学	外国人研究者が必要とする外部資金獲得支援とは何か―OISTの事例から
P47	J	若松 文貴	京都大学	海外ファンド獲得支援の実績と今後の展望
P48	J	信田 誠	京都大学	審査視点を踏まえた効果的な研究ストーリーを構築！ 外国人若手研究者向け科研費研究計画調書作成の英語セミナー
P49	J	清水 智樹	京都大学	研究ストーリーを魅せる文章と科学イラスト〜効果的な国際ニュースリリース発信のための戦略と手法〜

企業展示ブース

No	企業名
1	株式会社 化合物安全性研究所
2	ターニットイン合同会社 (Turnitin Japan)
3	VALUENEX 株式会社
4	カクタス・コミュニケーションズ 株式会社
5	国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
6	ファイザー 株式会社
7	F1000, Taylor & Francis Group
8	独立行政法人 工業所有権情報・研修館 (INPIT)
9	株式会社 クリムゾンインタラクティブ・ジャパン

企業展示・ポスター展示会場 E会場



情報交換会(懇親会)のご案内

時 間：受付開始18:00 18:30～開始
会 場：TKPガーデンシティ仙台(AER)
21階ホール21

詳細は右記QRコードから
大会HPをご覧ください

